

PLANET SNOW

ようこそ、プラネット・スノーへ
Welcome to PLANET SNOW

upas mintar / upas nociw

SIAF 2027

札幌の冬が変わる 世界でここだけの特別なアートイベント
Sapporo's Changing Winter—A Unique Art Event Found Nowhere Else in the World

札幌国際芸術祭

SAPPORO INTERNATIONAL ART FESTIVAL

Usa Mosir un Askay utar Sapporo otta Uekarpa

2027 1.16^{SAT} _ 2.21^{SUN}

札幌市内8会場を中心に開催
Held across 8 venues in Sapporo

主催：札幌国際芸術祭実行委員会／札幌市 助成：令和7年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業／在日スイス大使館
Organized by Sapporo International Art Festival Executive Committee and City of Sapporo
Supported by the Agency for Cultural Affairs, Government of Japan, Fiscal Year 2025 / Embassy of Switzerland in Japan



The City of Sapporo is responsible for the choice and the presentation of the facts and opinions in this material, which are not necessarily those of UNESCO and do not constitute this Organization.



雪の降る地球は、奇跡の星—— “プラネット・スノー”に見立てた札幌に、 国内外のアート作品や新しい表現が集う

PLANET
SNOW
upas mintar / upas nociw
SIAF 2027

2度目の冬開催となる札幌国際芸術祭2027（略称：SIAF2027）の開催まであと約1年となりました。
札幌の独自性を生かした前回SIAF2024での取り組みをアップデートし、
札幌市民を中心に、誰もが参加・体験しやすい芸術祭の実現を目指します。

札幌を壮大な物語の舞台に
「人類」「地球」「宇宙」を再考する芸術祭を通じて
未来への行動を呼びかける

SIAF2027のテーマは「^{プラネット・スノー}PLANET SNOW—^{upas mintar}upas mintar / ^{upas nociw}upas nociw」です。
札幌をプラネット・スノーに見立てるにあたって、アイヌ語ではテーマを2つの言葉
で表しています。札幌で暮らす人にとっては「ウパシ ミンタラ（雪の庭）」、遠くから訪
れる人にとっては「ウパシ ノチウ（雪の星）」。白い雪に包まれるSIAF2027は、未来
の人類と宇宙を巡る壮大な物語の舞台となります。[→詳細はP2]

札幌のインフラや公共空間の新たな活用方法を生み出す
過去開催から大きく転換した斬新な会場構成

札幌の魅力や資源を再考し、新たな価値や活用方法を生み出すこともSIAFの重要な使命のひとつです。今回、豊かな資料と多彩なコンテンツを有する魅力的な会場
が加わりました。SIAF初参加となる札幌市青少年科学館、北海道博物館です。さら
に、物語の重要な舞台として札幌市民ギャラリーが決定しました。モエレ沼公園や
さっぽろ雪まつりなど、降雪都市の特徴を感じられる会場も織り交ぜた、新しい
SIAFの幕開けとなるような会場構成です。[→詳細はP3・4]

新たなチームメンバーと
国内外から選出された第一弾参加アーティストが決定！
SIAF2027を先取りできるプレイベントも開催

SIAF2027をつくりあげる制作チームが徐々に集結しています。
ディレクターチームやアドバイザーに加え、各会場での展示プログ
ラムを企画するキュレーター陣、そして来場者が体験するストーリ
ーをぐっと深めるドラマトゥルクという役割が加わりました。さらに、第
一弾となる参加アーティストも国内外から選出され、プラネット・ス
ノーの物語がいよいよ紡がれていきます。[→詳細はP5-8]

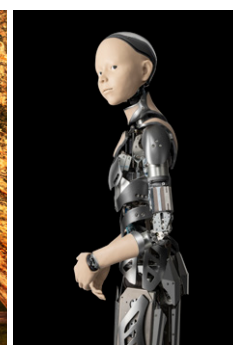
この冬、参加アーティストの作品を先取りできるプレイベントも開催
します！[→詳細はP10・11]



Photo by TAKUMA Noriko



ENES《Iwagumi Air Scape》
Photo by Finbarr FALLON



石黒 浩／いのちの未来研究所
《ヤマトロイド》



「文化芸術の持つ創造性を生かし、まちを活性化する」という考えをもとに、札幌市は2006年に「創造都市さっぽろ」を宣言しました。2013年にはユネスコ創造都市ネットワーク・メディアアーツ都市に認定され、その象徴事業として札幌国際芸術祭が始まりました。前回に続き「冬」が舞台となるSIAF2027では魅力的な新会場が加わり、市内中心部から郊外にかけて、国際色豊かなプログラムを展開します。市民や企業、地元団体との連携・協働を深め、まちの新たな価値を創造し、そして未来を考えるきっかけとなる芸術祭にぜひご期待ください。

札幌国際芸術祭 実行委員会 会長
札幌市長 秋元克広

札幌は、年間の累計降雪量が5メートル近い豪雪地帯でありながら、人口約200万人を抱える世界的に特異な都市です。この札幌らしさを存分に生かすため、前回のSIAFではテーマを「LAST SNOW」としました。雪の結晶、その極小の世界から、気候変動、パンデミック、分断、戦争といった地球を取り巻く現状に想像を広げ、未来に向けた創造と行動を呼びかけたテーマには多くのアーティストや市民が呼応してくれました。そして、SIAF2027のテーマは「PLANET SNOW—プラネット・スノー upas mintar / ウパシ ミンタラ upas nociw ウパシ ノチウ」です。雪を起点に、地球を超えて宇宙まで想像を広げ、SIAF2024に続く新たな展開を想定しています。

もし、札幌が宇宙のどこかにある『雪の惑星』だとしたら、どのような生活や文化の中でテクノロジーが活用され、どんな景色が広がっているのでしょうか。そして、雪の惑星から改めて見る地球はみなさんにどのように映るでしょうか。

SIAF2027では博物館、科学館、区役所など、日常的な都市機能・施設が主要会場になります。札幌に住む人にとっては見慣れた雪景色の捉え方が変わり、札幌を訪れる人にとっては非日常をより強く感じるような機会。SIAF2027では、どこに住んでいる人にとっても、未知の惑星「プラネット・スノー」に降り立ったような体験や想像を促す物語を展開します。

SIAF2024から地続きなのはテーマだけではありません。SIAFのあり方を示すビジョンも、前回を引き継ぎ、さらに発展させます。

○札幌ならではの独自性を生かす

冬の寒さや積雪は、ともすれば克服すべき対象と捉えられがちです。しかし私たちは、それを札幌固有の「魅力」として昇華させ、未来に繋げたいと考えています。その鍵は、この土地に住む市民のみなさんが持つ、暮らしの経験とアイデアに他なりません。

○市民を中心に、誰もが参加・体験しやすい芸術祭にする

芸術祭を、あらゆる市民に開かれたプラットフォームとするため、様々な社会実験や検証を重ねていきます。市民参加型のガイドプログラムの拡充の他にも、身体的・状況的な制約がある人でも参加しやすい設計を目指します。

○持続可能な仕組みを構築する

3年に一度の祝祭で終わらず、札幌に成果を根付かせるため、運営体制も見直しました。札幌在住の実務者を中心としたディレクターチーム制や、継続的な学校訪問などの活動を通じ、芸術祭を一過性のものにならない基盤を作ります。

これらのビジョンは、SIAF2024で掲げた「創造エンジン (Engine for Creativity)」、「文化インフラ (Cultural Infrastructure)」、「市民参加 (Citizen Participation)」の実践・具体化を目指すものです。

いよいよ一年後に迫ったSIAF2027。

LAST SNOWからPLANET SNOWへ。

街を変えていく芸術祭を、ここから一緒につくっていきましょう。

2027年1月、プラネット・スノーでお待ちしています。

SIAF2027ディレクターチーム

小川秀明／細川麻沙美／漆 崇博／丸田知明

2025年12月19日

PLANET SNOWを構成する8つの会場

PLANET
SNOW
upas mintar / upas nociw
SIAF 2027

SIAF2027では、過去開催から会場構成を大きく転換します。物語の中心となるのは札幌市民ギャラリー。さらに札幌市青少年科学館、北海道博物館、中央区複合庁舎までもがSIAFの舞台となることが決定しました。今回発表するのは、SIAF初参加となるこれら4施設を含めた8会場。異なる領域やジャンルとの「アートの掛け算」を拡張するSIAF2027ならではのセクションです。各会場には、それぞれの特性を生かしたユニークな世界が広がります。

1. 札幌市民ギャラリー

札幌市中央区南2条東6丁目

企画担当：金澤 韻



Photo by KUSUMI Erika

市民が日頃の芸術活動で創作した作品を発表・鑑賞する場として、1982年に開館しました。絵画・書道・彫刻・工芸など、公募展をはじめ一年を通じて数多くの展覧会が開催されています。この会場は、北海道ゆかりの作家や日本初出展のアーティストが登場し、プラネット・スノーを巡る旅の出発点となります。

2. 札幌市青少年科学館

札幌市厚別区厚別中央1条5丁目2-20

企画担当：西 翼



Photo by KUSUMI Erika

1981年に開館した「北国の科学館」。SIAF2027アドバイザーの山崎直子が名誉館長を務める同館は、マイナス30度の世界を体験することができる低温プレイグラウンドなど、積雪寒冷地の科学館としての特徴を打ち出しています。約1億個の星を映し出すプラネタリウムや、宇宙の誕生から北海道の成り立ちまで学ぶことのできる天文・地球科学エリアなどもある科学館には、多くの小中学生が訪れます。札幌市民に馴染み深いこの空間を、SIAFならではの視点で新たな体験の場に転換します。

3. 北海道博物館

札幌市厚別区厚別町小野幌53-2

企画担当：細川麻沙美

アーティスト：石黒 浩／
いのちの未来研究所



北海道の自然・歴史・文化を紹介する北海道立の総合博物館として、北海道開拓記念館（1971年開館）と道立アイヌ民族文化研究センター（1994年開所）が統合され、2015年に開館しました。以来、常設展示に加え特別展なども開催しながら、自然環境と人とのかかわりや、アイヌ民族の文化、本州から渡ってきた移住者の暮らしなどの調査・研究を行っています。博物館の学芸員チームとタッグを組み、博物館だからこそできる展示を展開します。

4. モエレ沼公園

札幌市東区モエレ沼公園1-1

企画担当：細川麻沙美



Photo by TAKUMA Noriko

世界的な彫刻家のイサム・ノグチが、公園全体をひとつの彫刻作品として基本設計を手がけたアートパーク。1982年に着工、2005年にオープンしました。自然とアートが融合する広大な公園は、初回SIAFからメイン会場のひとつとしてさまざまな作品展示や体験を生み出してきました。今回は国際的な連携プログラムを中心に、人間と環境、そして未来を改めて考える会場になります。

5. 札幌市資料館

（旧札幌控訴院庁舎）

札幌市中央区大通西13丁目

企画担当：漆 崇博



Photo by TAKUMA Noriko

1926年に札幌控訴院（のちの札幌高等裁判所）として建てられ、1973年の裁判所移転に伴い札幌市資料館として開館しました。札幌軟石を使った建物は、2020年に国の重要文化財に指定されています。初回SIAF実施からSIAFにおける市民参加の拠点として活用してきたこの場所は、2023年から始まった「SIAFスクール」プログラムが具現化する会場となります。

6. 中央区複合庁舎

札幌市中央区南3条西11丁目330-2

企画担当：漆 崇博



中央区役所・中央保健センター・中央区民センターの3施設が統合され、2025年2月に複合庁舎としてオープン。道産木材や札幌軟石などを使用した内装・外観、下水熱のエネルギー活用や省エネルギー化など環境配慮の特徴を備えています。SIAF2027では、市民サービスの窓口であるこの施設を芸術祭の会場に変貌させます。

PLANET SNOWを構成する8つの会場

PLANET
SNOW
upas mintar / upas nociw
SIAF 2027

7. 札幌文化芸術交流 センター SCARTS

札幌市中央区北1条西1丁目

企画担当：丸田知明



Photo by TAKUMA Noriko

札幌中心部の都市開発の一環として2018年にオープン。「札幌文化芸術劇場 hitaru」「札幌市図書・情報館」とともに「札幌市民交流プラザ」を構成し、札幌における文化芸術の拠点となっています。SIAF2024で芸術祭の入口となる「ビジターセンター」の役割を担ったこの会場が、SIAF2027ではSIAFスタジオによる共創の拠点となります。

8. さっぽろ雪まつり 大通会場

札幌市中央区大通西1～11丁目の一区画

企画担当：丸田知明

アーティスト：ENESS

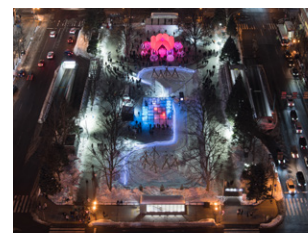
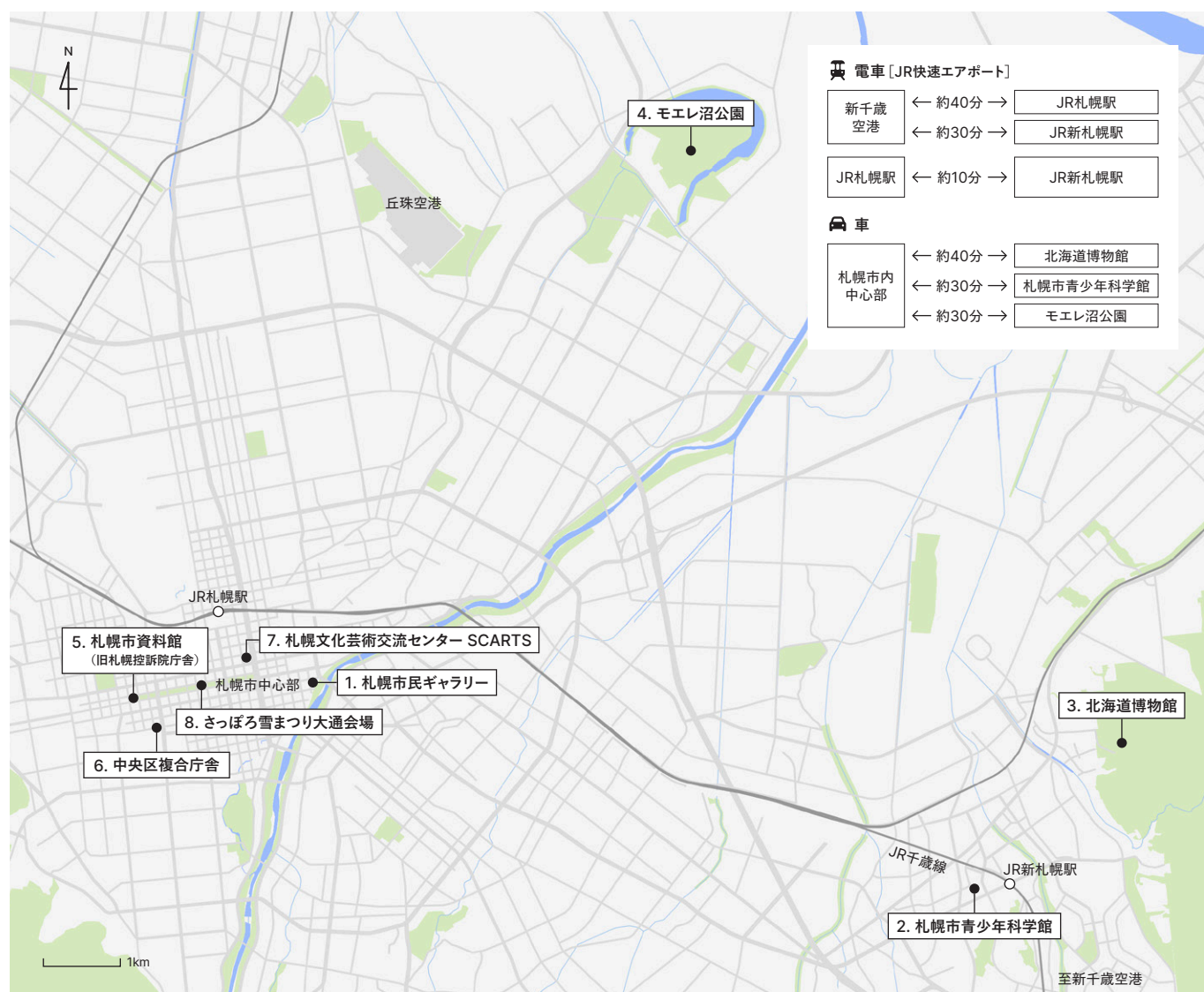


Photo by KOMAKI Yoshisato

1950年に地元の中高校生が6つの雪像を展示したことで始まった「さっぽろ雪まつり」は、今では国内外から200万人以上が訪れる札幌最大級のイベントです。初の冬開催となった前回芸術祭では、大通2丁目会場をまるごと使い「未来の雪のまち」を表現しました。SIAF2027では、会場のスケールを生かした展示空間を設計。広範囲にわたる大型作品を設置し、冬のまちに祝祭感をもたらします。

会場は今後も追加発表する予定です。



SIAF2027企画体制

PLANET
SNOW
upas mintar / upas nociw
SIAF2027

持続可能な芸術祭を目指し、4名の新たなディレクター体制で挑むSIAF2027。多様な視点をもたらすアドバイザーやアイヌ文化コーディネーターに加え、今回新たに発表するのが、展覧会を企画する2名のキュレーターです。さらにSIAF初の試みとして、ドラマトゥルクという役割が加わります。主に演劇などの舞台芸術の世界で活躍するドラマトゥルクですが、SIAF2027においては、ディレクターチームが構想するプラネット・スノーの物語を芸術祭全体に浸透させ、来場者の体験を深める役割を担います。

小川秀明

クリエイティブディレクター

オーストリア・リンツ市を拠点とする世界的な文化・芸術機関であるアルスエレクトロニカの研究開発部門、フューチャーラボの芸術監督・マネージングディレクター。SIAF2024ではディレクターを務めた。SIAF2027では、ディレクターチームの統括として、テーマ・コンセプトの監修を行うほか、国際的展開に関する企画方針を担当する。

細川麻沙美

フェスティバルディレクター

テレビ局での展覧会制作・運営や、企画・展示業務を中心としたフェスティバル事務局への従事を経て、初回からSIAFに関わり、SIAF2024では未来劇場（東1丁目劇場施設）における展覧会企画を担当。SIAF2027では開催基本方針の策定、広報戦略の監修に加え、北海道博物館・モエレ沼公園における展示企画も担当する。

漆 崇博

スクールディレクター

一般社団法人AISプランニング代表理事。北海道内でのアーティスト・イン・スクール事業をはじめとしたアートと社会をつなぐ担い手として活動。初回からSIAFに関わり、SIAF2024からスクール事業を担当。SIAF2027でも教育機関との連携（出前授業・教育喫茶）や生涯学習プログラム（ふむふむプロジェクト）を中心としたSIAFスクール企画、さらに札幌市資料館（旧札幌控訴院庁舎）・中央区複合庁舎の企画を担当する。

丸田知明

スタジオディレクター

丸田知明建築設計事務所代表。SIAF2017からアーキテクト（建築設計）スタッフとして関わり、各会場の図面制作や現場監督、作品制作にかかるサポートなどを担当。国際芸術祭あいちにおいても同様の役割を担っている。SIAF2027では会場構成に加え、企業や地域団体との連携、さらに札幌芸術文化交流センター SCARTS、さっぽろ雪まつり大通会場の企画も担当する。



左から漆 崇博、丸田知明、小川秀明、細川麻沙美

山崎直子

アドバイザー

宇宙飛行士／札幌市青少年科学館名誉館長。幼稚園年長から小学校2年生まで札幌市に在住。2001年現宇宙航空研究開発機構（JAXA）の宇宙飛行士に認定。2010年4月スペースシャトル・ディスカバリー号に搭乗、国際宇宙ステーション（ISS）組立補給ミッションSTS-131に従事。SIAF2027では、アドバイザーとして物語に宇宙科学の視点をもたらす。



©NASA

金澤 韻

ドラマトゥルク／キュレーター

現代美術キュレーター。ICA京都特別プロジェクトディレクター。熊本市現代美術館、川崎市市民ミュージアム勤務を経て独立、国内外で多数の展覧会や国際芸術祭に携わる。2017～20年は十和田市現代美術館学芸統括を務める。創作的テキストを用いた実験的な展覧会構築に取り組んできた経験を生かし、SIAF2027ではドラマトゥルクとして芸術祭全体のストーリーを監修するほか、キュレーターとしてメイン会場となる札幌市民ギャラリーの展示企画を担当。



Photo by Una Zhu

西 翼

キュレーター

山口情報芸術センター[YCAM]キュレーター。YCAMでは展覧会企画を中心に、研究開発プロジェクト、人材育成プログラムなども担当する。SIAF2024では、モエレ沼公園会場のプロジェクトマネージャーとして、屋外や雪倉庫を舞台としたプログラム・作品に携わる。SIAF2027では札幌市青少年科学館の展示企画を担当。



Photo by Iroha

マユンキキ

アイヌ文化コーディネーター

アイヌの伝統歌を歌う「マレウレウ」「アベトウンベ」のメンバー。現代におけるアイヌの存在を、あくまで個人としての観点から探求し、アーティストとしても活動。SIAF2017には企画メンバーとして参加。SIAF2020以降は、アイヌ文化コーディネーターとして、SIAFのアイヌ語公式名称、アイヌ語テーマを考案。アーティストへの専門的なアドバイスも行う。

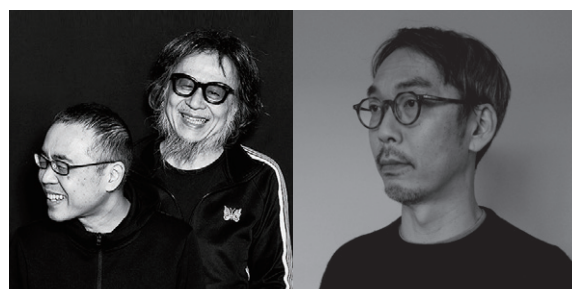


Photo by IKEDA Hiroshi

ワビスabi・白井宏昭

アートディレクター&デザイナー

工藤“ワビ”良平と中西“サビ”一志によるデザインユニットのワビスabi、札幌を拠点とするグラフィックデザイナー・白井宏昭。SIAF2020からタッグを組んできた2組が協働し、SIAF2027のアイコニックなビジュアルを生み出していく。



札幌を舞台に始まるPLANET SNOWの世界。そこに参加するアーティスト第一弾が決定しました。

石狩の厳しい自然の中で、地球の時間=ディープタイムを見つめながら鉄と向き合う彫刻家・川上りえ、漂流物や拾得物を組み合わせ、不思議な生き物たちを召喚する津別のシゲチャンランド(大西重成)、時に身体ごと使用する驚異的な版画技術でこの世をユーモラスに描出する若木くるみが、北海道出身／在住アーティストとして作品を展示します。

北海道博物館には、いのちの在り方を問いかけた大阪・関西万博シグネチャーパビリオン「いのちの未来」を継承する、石黒 浩／いのちの未来研究所によるアンドロイドが登場。ファッションデザイナーの

中里唯馬は、氷河に覆われた極寒地のフィールドワークをへて生み出された新作シリーズGLACIERを場に即した特別な展示にします。スイスのメディアアート・コレクティブ ^{フラグメンティン} Fragmentin は札幌でのリサーチを生かした作品を、フランスのアニメーション作家 Boris LABBÉ は新作を発表予定。檜皮一彦は自身のメディアとして車椅子を用い SIAF2024 をリサーチ。その成果を会場づくりに反映させます。雪まつり会場には、オーストラリアのアート&テクノロジースタジオ ^{エネス} ENESS が国際的なデザイン賞を受賞した最新作と共に再登場。光と音が彩る巨大な岩のようなバルーンインスタレーション作品を披露します。そして札幌を拠点とする二人組ニューウェーブ・テクノポップバンド ^{ラウスバブ} LAUSBUB が SIAF2024 に続きテーマソングを手がけます。



川上りえ《Landscape Will 2019》2019 Photo by MAEZAWA Yoshiaki



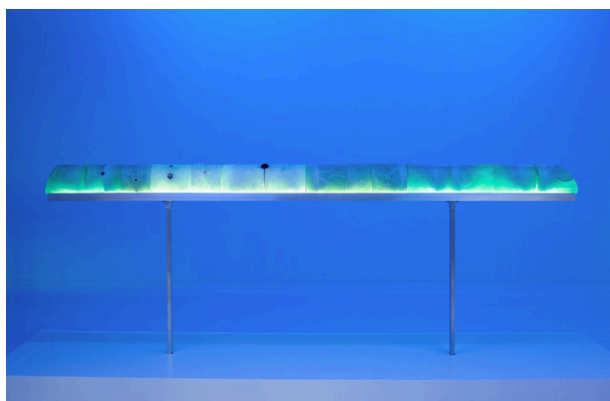
若木くるみ《ぼっぴんを吹け娘》2020



シゲチャンランド(大西重成)《No217》2025

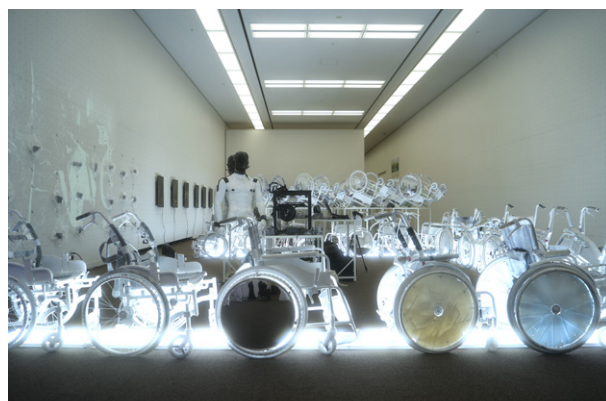


● ENESS《Iwagumi Air Scape》Photo by Finbarr FALLON

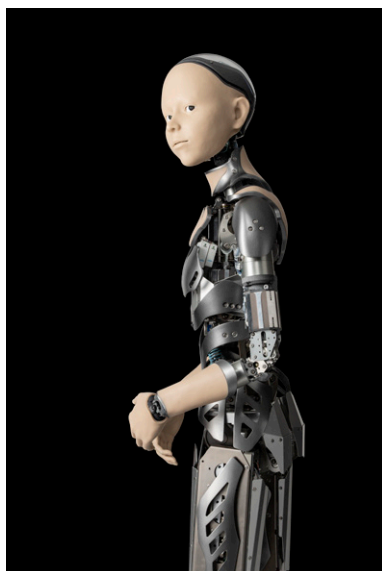


Fragmentin 《GLOBAL WIRING》2023

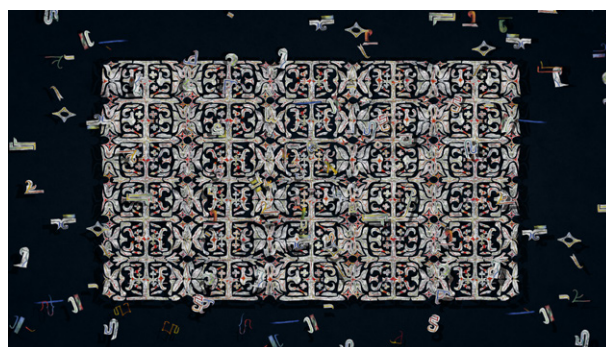
Supported by
Vitality
Swiss



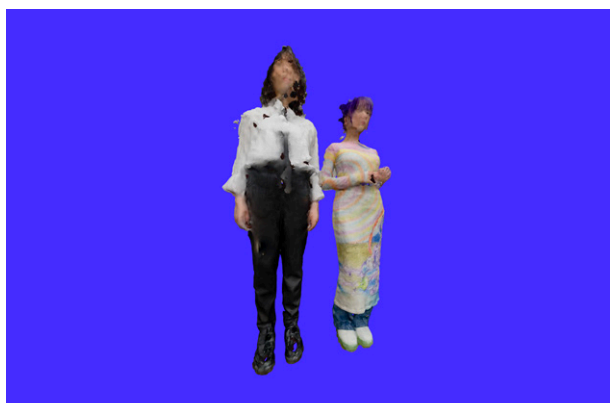
檜皮一彦 《walkingpractice feat.HIWADROME》2023



● 石黒 浩／いのちの未来研究所 《ヤマトロイド》
©FUTURE OF LIFE



Boris LABBÉ 《SIRKI》2019



LAUSBUB



中里唯馬 Photo by NAKAZATO Yuima

●は出展予定作品、他は参考作品

札幌国際芸術祭2027 開催概要

2025.12.19現在

PLANET
SNOW
upas mintar / upas nociw
SIAF 2027

名 称	札幌国際芸術祭2027 (日本語) Sapporo International Art Festival 2027 (英語) Usa Mosir un Askay utar Sapporo otta Uekarpa 2027 (アイヌ語)	
略 称	サイアフ SIAF2027	
テーマ	プラネット・スノー PLANET SNOW ウバシ ミンタラ ウバシ ノチウ upas mintar / upas nociw	
会 期	2027年1月16日(土)～2月21日(日) ・札幌市青少年科学館：2027年1月5日(火)～2月21日(日) ・さっぽろ雪まつり大通会場：2027さっぽろ雪まつりの会期に準じる	
	※一部の会場は休館日あり	
会 場	札幌市民ギャラリー 札幌市青少年科学館 北海道博物館 モエレ沼公園	札幌市資料館(旧札幌控訴院庁舎) 中央区複合庁舎 札幌文化芸術交流センター SCARTS さっぽろ雪まつり大通会場
アーティスト	川上りえ シゲチャンランド(大西重成) 若木くるみ エネス ENESS フラグメンティン Fragmentin	檜皮一彦 石黒 浩／いのちの未来研究所 ボリス・ラベ Boris LABBÉ ラウスバブ LAUSBUB 中里唯馬
ディレクターチーム	小川秀明 (クリエイティブディレクター) 細川麻沙美 (フェスティバルディレクター) 漆 崇博 (スクールディレクター) 丸田知明 (スタジオディレクター)	
アドバイザー	山崎直子	
ドラマトゥルク	金澤 韻 (PLANET SNOWストーリー編集)	
キュレーター	金澤 韻 (札幌市民ギャラリー担当) 西 翼 (札幌市青少年科学館担当)	
アイヌ文化コーディネーター	マユンキキ	
アートディレクター&デザイナー	ワビサビ／白井宏昭	
主催	札幌国際芸術祭実行委員会／札幌市	
助成	文化庁 文化芸術創造拠点形成事業／在日スイス大使館	

2026年冬のプレイベント — SIAF2027に向けて—



SIAFはこの冬も3つのプレイベントを開催します。

2026年もSIAFがさっぽろ雪まつり大通会場に参加！大阪・関西万博会場内に展示された話題の作品を紹介します。さらに、札幌市内の冬のアートイベントをまとめて楽しむプログラム「みんなでウパシテ!!2026 冬の札幌 アート巡り」、学校の先生やアーティストによるワークショップ祭り「SIAFスクール 教育喫茶特別編 STEAM STUDY DAY 2026—未来の学校を体験!ワークショップ&トーク—」で、SIAF2027開幕1年前の冬を盛り上げます。

1. 札幌国際芸術祭 冬のプレイベント@さっぽろ雪まつり大通6丁目会場

日時：2026年2月4日(水)～11日(水・祝) 10:00-20:00

会場：さっぽろ雪まつり大通6丁目会場(西側の一部)

さっぽろ雪まつりとSIAFが今年もコラボレーション！作品展示を中心としたスペシャルプログラムを企画します。



○屋外作品展示 檜皮一彦《HIWADROME: type_ark_spec2》

SIAF2027参加アーティストの檜皮一彦が手がける、70台を超える車いすを「素材」として使用した大型作品を展示します。本作は大阪・関西万博会場内で展示され話題を呼びました。



檜皮一彦《HIWADROME: type_ark_spec2》2025
EXPO 2025 大阪・関西万博会場夢洲での展示風景

○関連プログラム

ふむふむプロジェクト

来場するみなさんがイベントをもっと楽しめるように、ふむふむサポーターが会場内のご案内や作品ガイドを行います。最終日には市内の子どもたちによるガイドプログラムを初めて実施します。



Photo by FUJIKURA Tsuhasa

札幌国際芸術祭 in さっぽろ雪まつり大通6丁目会場(2025年2月4日～11日)におけるふむふむガイド活動の様子

○特設テント内

フジ森《みんなのコード 雪・木・星+みんなのモンスター》2025

アートユニット・フジ森、株式会社ワコムとSIAFが協働して実施した札幌市内小中学校での出前授業。授業を通して子どもたちが制作した数々のオリジナル作品を投影します。

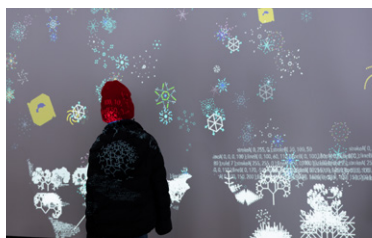


Photo by FUJIKURA Tsuhasa

左：SIAFスクール 出前授業「自分だけの新しいモンスターを作ってみよう～ワコム流アイデアワーク～」の様子
右：フジ森《みんなのコード[雪・木・星]》2025

○屋外紹介パネル

世界とつながる“メディアアーツ都市さっぽろ”

創造性をまちづくりの核と捉える都市が連携する「ユネスコ創造都市ネットワーク」。札幌市が加盟する「メディアアーツ分野」の26か国27都市を紹介します。



ユネスコ創造都市ネットワーク年次総会の様子
©Bastien André / UNESCO / Ville d'Enghien-les-Bains

2. みんなでウパシテ!! 2026 冬の札幌 アート巡り

日時：2026年1月10日(土)～2月28日(土)

会場：札幌市内各所

札幌市内で開催される冬のアートイベントとの連携による周遊プロジェクトです。

「ウパシテ」はアイヌ語の「雪(ウパシ)」に由来する言葉。SIAF2024のアイヌ語サブテーマとして生まれ、「未来に向けて走り出してみる、互いに気づきあってみる」という意味が込められています。今年は22団体が開催する個性豊かな26のイベントが参画。情報をまとめたガイドマップと特設ウェブサイトを活用し、ぜひ冬のアートイベントにお出かけください。

※「みんなでウパシテ!!2026」は、SIAF2024の会場や公募・連携プロジェクト関係者と、期間中に市内で開催される大学や専門学校の卒業制作展に参加を呼びかけました。



3. SIAFスクール 教育喫茶特別編 STEAM STUDY DAY 2026

—未来の学校を体験!ワークショップ&トーク—

日時：2026年2月28日(土) 10:00-17:00

会場：中央区複合庁舎 区民ギャラリー

参加対象：小中学生、教職員、アーティスト、教育機関関係者

「教育喫茶」は学校の先生をはじめとする教育関係者が集まり、教育とアートの実験的な取り組みを生み出すコミュニティです。今回の特別編では、学校の先生やアーティストが、「STEAM教育で生み出す未来の学校」をテーマにした実験的なワークショップを多数実施。SIAFスクールで企画・開発中の新しいプログラムも実践します。プログラムの最後には、未来の教育を語り合うシンポジウムを実施し、SIAF2027開催に向け「教育×アート」の可能性を深く考察します。詳細は後日ウェブサイトで公開予定です。



SIAFスクール 教育喫茶「STEAM STUDY DAY in SCARTS 2025」の様子

SIAF2027来場者をサポートする「ふむふむプロジェクト」新たな仲間を募集中!

SIAFの来場者がより深く芸術祭を楽しめるよう、さまざまな形でサポートすることを目的とした「ふむふむプロジェクト」。現在、サポート活動の担い手となる「ふむふむサポーター」を募集しています。

●活動内容

SIAF2027や関連イベント等の会場で、来場者のご案内や展示作品のガイドを行います

●参加条件

中学生を除く15歳以上の方で、他の参加者や関係者と協力して活動できる方

※高校生または18歳未満の方は、保護者の同意書が必要です

ふむふむプロジェクト詳細はSIAF公式ウェブサイトで紹介しています。



SIAF2024「ふむふむサポーターによる」手話でみる未来劇場ツアー」の様子

お問い合わせ

札幌国際芸術祭実行委員会事務局 担当：杉本・阿部島

〒060-0001 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌時計台ビル10階

Tel：011-211-2314 (平日8:45～17:15) | Fax：011-218-5157 | E-mail：press@siaf.jp